

みずほマーケット・トピック(2022年3月4日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

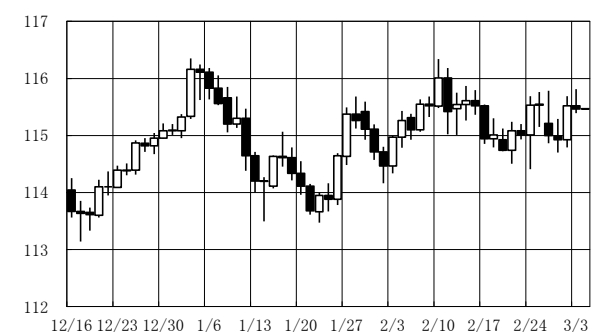
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は値幅を伴いつつも方向感を見出しづらい展開となった。週初28日、115.60円付近でオープンしたドル/円は週末のロシアの一部大手銀行を国際銀行間通信協会(SWIFT)から締め出す金融制裁措置にリスク回避の動きが燃る中、115円台半ばでの小動きだったが、海外時間に入り米株安や米金利低下に伴うドル売りが優勢となり、114円後半まで値を下げた。1日、ドル/円は仲値にかけて上値を伸ばすも一巡後は伸び悩む展開。ロシアの軍事行動激化を背景にリスク回避の動きが加速し、米長期金利低下も相まって週安値の114.70円まで下落。米国時間では米2月ISM製造業景気指数が市場予想を上回るも、相場への影響は限定的で114円台後半で揉み合いとなった。2日、ドル/円はロシア・ウクライナを巡る地政学的リスクを背景に有事のドル買いが強まりじりじりと上昇。海外時間でもその流れは継続、米金利上昇や米2月ADP雇用統計の力強い結果に115円台後半まで続伸した。3日、ドル/円は株式市場の堅調推移や米金利上昇に伴うドル買いに週高値の115.81円付けた後、米国時間では発表の米2月ISM非製造業景況指数の冴えない結果に115円台前半まで反落した。本日のドル/円は115円台半ば付近での取引となっている。
- 今週のユーロ/ドル相場は週後半にかけて急落した。週初28日、1.1180付近でオープンしたユーロ/ドルはロシア・ウクライナを巡るヘッドラインを警戒しながらも、米金利低下に伴うドル売りにサポートされてじり高に推移し週高値の1.1247まで上昇した。1日、1.12台前半で推移していたユーロ/ドルは地政学的リスクの高まりやロシアへの追加経済制裁を背景とした欧州経済の先行き不透明感に株式市場も軟調に推移し1.10台後半まで急落。その後持ち直すもユーロ買い要素に乏しく1.11台前半での小動きとなった。2日、ユーロ/ドルはエネルギー価格高騰に欧州の景気後退が意識されユーロ売りが加速し、欧州時間に1.10台半ばまで急落。その後反発も、米金利上昇や米経済指標の良好な結果に再び1.10台半ばまで押し戻された。3日、ユーロ/ドルは1.10台前半での小動きだったが、地政学リスクの継続や欧州株の大幅下落が重石となり、米国時間に週安値の1.1033まで急落した。本日のユーロ/ドルは1.10台半ば付近で推移している。

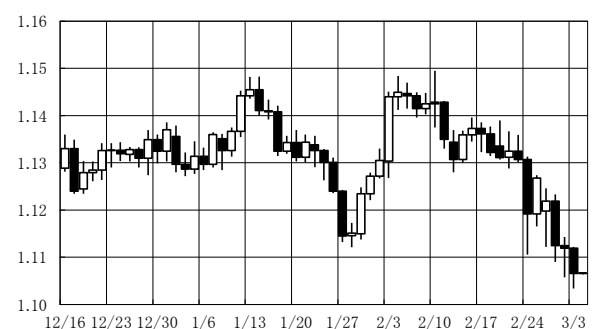
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		2/25(Fri)	2/28(Mon)	3/1(Tue)	3/2(Wed)	3/3(Thu)
ドル/円	東京9:00	115.55	115.58	115.10	114.84	115.52
	High	115.76	115.80	115.29	115.69	115.81
	Low	115.15	114.80	114.70	114.79	115.39
	NY 17:00	115.51	114.97	114.91	115.52	115.44
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1191	1.1181	1.1213	1.1132	1.1133
	High	1.1274	1.1247	1.1233	1.1144	1.1121
	Low	1.1166	1.1121	1.1090	1.1058	1.1033
	NY 17:00	1.1272	1.1220	1.1124	1.1119	1.1066
ユーロ/円	東京9:00	129.31	129.23	129.08	127.83	128.41
	High	130.28	129.80	129.25	128.75	128.48
	Low	128.77	128.10	127.38	127.33	127.60
	NY 17:00	130.24	128.99	127.81	128.54	127.73
日経平均株価		26,476.50	26,526.82	26,844.72	26,393.03	26,577.27
TOPIX		1,876.24	1,886.93	1,897.17	1,859.94	1,881.80
NYダウ工業株30種平均		34,058.75	33,892.60	33,294.95	33,891.35	33,794.66
NASDAQ		13,694.62	13,751.40	13,532.46	13,752.02	13,537.94
日本10年債		0.21%	0.18%	0.18%	0.13%	0.17%
米国10年債		1.97%	1.82%	1.71%	1.88%	1.84%
原油価格(WTI)		91.59	95.72	103.41	110.60	107.67
金(NY)		1,887.60	1,900.70	1,943.80	1,922.30	1,935.90

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、本日 4 日(金)に 2 月雇用統計が発表される。前回 1 月の非農業部門雇用者数は+46.7 万人(前月比、以下同様)と市場予想(+15.0 万人)を大幅に上回る結果となった。民間部門雇用者数は+44.4 万人、政府部門雇用者数は+2.3 万人の結果となった。民間部門雇用者数に関する内訳は、民間サービス部門が+44.0 万人と 12 月の+44.1 万人からほぼ横ばいの推移。娯楽・宿泊業が+15.1 万人、飲食サービス業が+10.8 万人などオミクロン株拡大の影響が懸念されたが概ね堅調な推移となった。財部門は+0.4 万人と 12 月の+6.2 万人からやや上昇幅を減らした。政府部門は 12 月の+0.7 万人から上昇幅を伸ばした。失業率は 4.0%と 0.1%ポイントの悪化となったが、労働参加率(労働力人口÷生産年齢人口)は、62.2%と 12 月から 0.3%ポイント改善した。また、長期失業者数(27 週以上の失業者人数)は前月から▲31.7 万人と引き続き減少傾向が見られている。この他、平均時給が+0.7%と 20 年 12 月以来の増加率を記録し労働需要の高まりが確認される内容となった。なお 2 月の結果についてブルームバーグの事前予想では非農業部門雇用者増加数を+42.3 万人と見込んでいる。失業率については、3.9%、労働参加率については 62.2%の予想となっている。
- 欧州では 10 日(木)に ECB 政策理事会が開催される。前回 1 月の会合では足許のインフレ動向を受けて従前のハト派姿勢を急旋回した。年内の利上げを否定しなかった点や今回会合において政策調整を示唆した点が注目点となった。後者について、会合後の会見にて「量」から「金利」への時間的順序は遵守するとラガルド総裁は発言したことから定例購入プログラム(APP)の処遇が再度議論されるとの見方が強い。これまでパンデミック緊急購入プログラム(PEPP)の 3 月停止を踏まえ APP は 4 月から 9 月にかけて臨時増額をした上で、10 月以降に再度購入額を修正していくといった内容となっていたが、9 月末に APP が終わり、10 月もしくは 12 月の会合で利上げという動きも視野に入りそうだ。一方で、ウクライナ情勢の悪化による欧州経済への影響は依然として不透明な点も多く、足許の ECB の見解は関心の高い論点となろう。急速なタカ派傾斜は景気後退を招きかねないとの懸念もあり、金融政策の正常化は慎重に検討されるものと見られる。

	本 邦	海 外
3 月 4 日(金)	・1 月有効求人倍率/失業率	・ユーロ圏 1 月小売売上高 ・米 2 月雇用統計
7 日(月)	—————	・ユーロ圏 3 月センチックス投資家信頼感指数
8 日(火)	・1 月経常収支	・ユーロ圏 10~12 月期 GDP(確報) ・米 1 月貿易収支
9 日(水)	・10~12 月期 GDP(確報)	—————
10 日(木)	・2 月国内企業物価指数	・ユーロ圏 ECB 政策理事会 ・米 2 月 CPI ・米 2 月財政収支
11 日(金)	・1 月家計支出	・米 3 月ミシガン大学消費者マインド(速報)

【当面の主要行事日程(2022 年 3 月~)】

ECB 政策理事会 (3 月 10 日、4 月 14 日、6 月 9 日)

FOMC (3 月 15~16 日、5 月 3~4 日、6 月 14~15 日)

日銀金融政策決定会合 (3 月 17~18 日、4 月 27~28 日、6 月 16~17 日)

市場営業部・金融市場部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2022年3月3日	ロシアのデフォルトはシスデミックリスクになるのか？
2022年3月2日	ECB政策理事会プレビュー～安全通貨としてのユーロ～
2022年3月1日	日銀のロシア中銀取引禁止について～保有資産の実態～
2022年2月28日	SWIFT遮断にまつわる論点整理～7つのQ&A～
2022年2月25日	週末版
2022年2月24日	年初来の為替市場総括～円キャリー取引復活の兆候？～
2022年2月22日	孤立する日本株市場～「新しい資本主義」の誤解？～
2022年2月21日	ECB利上げの有無について～非公式政策理事会を前に～
2022年2月18日	週末版(「50年ぶりの円安」が意味するもの～「経済より命」路線の結末～)
2022年2月17日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年1月分) 円相場の構造変化～変わる基礎収支の姿～
2022年2月16日	ラガルド講演を受けて～認める金融政策の無効性～
2022年2月15日	本邦10～12月期GDPを受けて～依然大きな内外格差～
2022年2月14日	「開始前から終盤」の様相を呈するFRBの正常化プロセス
2022年2月10日	週末版(ウクライナ問題～ドイツの自衛行為は止まらないのか～)
2022年2月8日	為替は金利の代わりに政治ヘアラームを鳴らすか？
2022年2月7日	米1月雇用統計～労働参加率上昇にも注目すべき～
2022年2月4日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利上げは最速7月か？～)
2022年2月2日	沈む円相場の全体感と日本の現状
2022年2月1日	オーバーキル懸念が色濃くなる米国経済
2022年1月28日	週末版
2022年1月27日	FOMCを終えて～いつまで株価を無視できるか～
2022年1月26日	IMF見通し改定について～リスク満載の世界経済～
2022年1月25日	孤立感が強まるドイツ～ショルツ政権の迷走～
2022年1月24日	夜明けは近いのか、遠いのか～鳴かないカナリア～
2022年1月21日	週末版(インフレに変化を強いられそうなECBの政策姿勢～ドイツ10年金利は約3年ぶりにプラス圏へ～)
2022年1月20日	米実質金利上昇とドル相場への影響
2022年1月19日	日銀金融政策決定会合～「悪い円安」をどう処理するか～
2022年1月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年12月分) 続きそうな「日本回避」～「市場の声」は届くのか～
2022年1月17日	既に漂うオーバーキル懸念～「最後のテーマ」は？～
2022年1月14日	週末版
2022年1月13日	円安と物価高と国民感情の近況について
2022年1月12日	「嵐の前の静けさ」を警告するIMF
2022年1月11日	信じて貰えないECBのハト派姿勢
2022年1月7日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～「正常化レースの進捗」≡「為替の進捗」～)
2022年1月5日	欺瞞を晒したEUの天然ガス・原子力グリーン認定
2022年1月4日	2022年、円安・ドル高シナリオの死角は「日銀の正常化」か？
2021年12月28日	2022年の為替概観②～「2つの正常化」と新興国～
2021年12月27日	2022年の為替概観～2つの「正常化」が作る世界観～
2021年12月24日	週末版
2021年12月23日	円相場の近況～5年ぶり値幅、最低の取引量、感染拡大～
2021年12月22日	無視はできない需給面のドル安リスク
2021年12月20日	2021年に浮上した「悪い円安」論を再考する
2021年12月17日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「ラガルド・バズーカ」と利上げ見通し～)
2021年12月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年11月分) FOMCを受けて～今度はインフレが「一時的」であるリスク？～
2021年12月15日	「安い日本」を体現するアパレル生産日本回帰報道
2021年12月13日	41年ぶりの企業物価上昇～圧迫される企業収益～
2021年12月10日	週末版(いきなり外交的試験に直面するドイツ新政権～北京五輪という「踏み絵」～)
2021年12月8日	2022年も「日本回避」がテーマか～首相演説を受けて～
2021年12月7日	過去最大のインフレ率を前にECBはどう動くか
2021年12月6日	弱い雇用統計とFRBの正常化プロセスについて
2021年12月3日	週末版(FRBの政策運営をどう考えるか～本当の正常化プロセスは23年以降に～)
2021年12月2日	変節し始めたECB～減らないPEPP、隠れる本音～
2021年11月29日	アフター・メルケル政権誕生へ～新連立の見どころ～
2021年11月26日	週末版
2021年11月25日	再び浮上する「合意なき離脱」リスク～6年目の混乱～
2021年11月24日	ドル/円、115円台突破を受けて～色濃い日本回避～
2021年11月22日	欧州の感染再拡大の影響をどう見るか？
2021年11月19日	週末版
2021年11月17日	10月貿易統計を受けて～補強される円安シナリオ～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年10月分)
2021年11月16日	不安視される米消費者心理の悪化
2021年11月15日	今年2度目のマイナス成長となった日本
2021年11月12日	週末版(本邦10月国内企業物価指数を受けて～可視化され始めた円安&資源高の怖さ～)
2021年11月11日	ドル/円相場、5年ぶりの値幅は大相場の前兆か？
2021年11月10日	欧米7～9月期GDPについて～大きすぎる日本との格差～
2021年11月9日	FOMCと米10月雇用統計を受けて～今後の見方～
2021年11月5日	週末版
2021年10月29日	週末版(ECB政策理事会を終えて～冷静なインフレ分析と盛り沢山の12月会合～)
2021年10月28日	2%を突破したユーロ圏のインフレ期待と利上げの今後
2021年10月26日	供給制約下の利上げは正当化されるのか？
2021年10月25日	ECB政策理事会プレビュー～12月に向けた露払い～
2021年10月22日	週末版(ドイツメンバー、4度目の退場～バイマン独連銀総裁の辞任報道を受けて～)
2021年10月20日	本邦9月貿易収支を受けて～需給も円売り材料に～
2021年10月19日	ドイツ連立政権発足へ前進～クリスマス前にも？～
2021年10月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年9月分)
2021年10月15日	欧州委員会、初のグリーンボンド発行を受けて 週末版(IMF秋季世界経済見通し(WEO))を受けて～世界とは別次元の日本の悩み～)
2021年10月13日	円安に蝕まれる日本経済の現状
2021年10月12日	現実味を帯びるECB正常化、日銀にも好機
2021年10月11日	米9月雇用統計を受けて～既定路線の修正には至らず～
2021年10月8日	週末版(ECB政策理事会議事要旨(9月9日開催分)～争点は「PEPPの次」へ～)
2021年10月7日	インフレ高進を考える～「目先の生活」vs.「地球の気温」～
2021年10月5日	交易条件の悪化に蝕まれる日本経済
2021年10月4日	岸田政権に求められる「新規感染者主義からの脱却」
2021年10月1日	週末版
2021年9月30日	ドル/円の年初来高値更新と岸田新政権への期待